

(様式第4号)

第6回真田地域協議会 会議概要

1	審議会名	真田地域協議会
2	日 時	平成21年9月24日(月) 午後7時00分から午後9時00分まで
3	会 場	真田地域自治センター 301会議室
4	出席者	佐藤和雄副会長、上原和彦委員、大日方早苗委員、桑田まなみ委員 小島俊幸委員、小林豊明委員、小林満子委員、坂口恒子委員、坂口益次委員 塩沢憲子委員、清水茂委員、関清美委員、関貞徳委員、中沢盛雄委員 花岡静枝委員、宮下蘭子委員、山宮良雄委員 【欠席委員】3名
5	市側出席者	笠原センター長、センター全課長、滝沢地域政策係長、武捨主査、宮島主査 大沢政策企画局長、伊藤交流・文化施設準備室長
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成21年9月28日
協 議 事 項 等		
1	開 会	(佐藤副会長)
2	会長あいさつ	(代理：佐藤副会長) 本日は、清水会長が欠席ですので、私が代行して進めます。
3	センター長あいさつ	(笠原センター長) 市からの報告事項 ・ 9月30日「人権を考える講演会」の開催について(真田教育事務所) ・ 真田地域市民団体リストについて(事務局)
4	会議事項	(1) 交流・文化施設整備について(政策企画局 交流・文化施設整備準備室) 〔資料 - JT開発地における交流・文化施設のありかた検討結果報告書〕 (大沢政策企画局長、伊藤交流・文化施設準備室長) ～ JT開発地における交流・文化施設のありかた検討結果報告書(平成21年8月 交流・文化施設等検討委員会)の説明 ～ 【質疑応答】 (委員) 検討委員会では、財源について議論したのか。建設費 135億円のうち、合併特例債をどれくらい使うのかなど、もっと財源のことを市民に分かりやすく説明する必要がある。 大ホールを1700席とする理由のひとつに、「県下の中核都市として、東信濃域全体 。」とある。全体のことによいが市民を第一に考え、身の丈にあった施設の規模にすべきである。

検討委員会では理想的な施設のことを考えていて、財源のことは考えていない。この施設にお金へ使ってしまうと、少子化や景気低迷の時代、借金として大きな負担を次世代に残してしまう。

(伊藤交流・文化施設準備室長)

今日は、市に対して検討委員会から提出された報告書の内容を説明しました。今後、市としての整備計画を策定する上では、市の財政計画や長期にわたる施設運営のシミュレーションを行い、この報告書の施設規模が本当に必要なのかを含めて検討を重ねていきます。

上田市の文化・芸術の現状や課題を踏まえながら、時代を創っていく子どもたちの将来、あるいは文化・芸術のあり方、また文化・芸術を通じて地域が活性化していくといった観点で検討委員会には議論していただきました。

検討委員会では、夢を持って議論することも大事かと考えます。一方、財政状況を配慮してほしいという市民からのご意見、さらには検討委員会の委員からも財政についての意見が出される中でこの報告書は作成されています。

事業費については、150億円(中間報告)から135億円に減額されています。135億円を使い切ると仮定した場合の財源内訳は、国からのまちづくり交付金(14億円)、合併特例債(111億円)、市の当初負担(10億円)です。この内の合併特例債については、後年度に交付税措置(78億円)がありますので、最終的な市の実質負担額は43億円と試算されます。また、他施設の管理経費の事例から、運営管理費は年間3億5千万円程度、自主事業費7000万円程度を見込んでいます。

この報告書の提出を受け、市としてこれだけの施設をつくっていくのか、この規模が必要なのか、財源の裏打ちができるのかなどの検討していくわけですが、その内容については、今後できるだけ市民の皆さんに説明し、ご意見をいただきたいと考えています。

(大沢政策企画局長)

当市の将来の財政負担についてご意見をいただきました。学校の建替や耐震化の問題、また景気の悪化による歳入の問題など、財政面では多くの課題がございます。

そのような中、上田市第一次総合計画(平成27年度まで)には大型事業が数多く盛り込まれており、その事業をどの時期に実施するのが市にとって最善なのかということで、現在、事業内容を精査しながら実施計画(3年計画)の策定作業を行っています。11月・12月の段階で実施計画がまとまり次第、皆さんにお示してご意見をいただく予定です。

夕張市の財政破綻をきっかけに、国は地方自治体の健全財政に向けた取組を行いました。国が定めた財政指標(実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率等)から、平成20年度決算における上田市の財政は健全という状況であります。今後もこの指標を目安にしながら健全財政に努めてまいります。

(委員)

中間報告と比べ、延べ床面積が 1000 m²増えているのに、事業費は 15 億円減っていて、非常に分かりにくい説明ではないか。また、運営・管理経費を試算している平均値は、各施設の条件が大きく違い、乱暴な数値とを感じる。

(伊藤交流・文化施設準備室長)

実際に仮設計をしないと金額(事業費)は見えてこない状況があります。同じように運営・管理経費費についても、あくまでも目安です。市の整備計画を策定する課程では、ランニングコスト等が見えてくる資料をお示しできると思います。

(委員)

市民合意を得る方法については、行政が考えている市民合意と、市民レベルが考えている市民合意に違いがあるのではないかと。市民懇談会などを行ったから市民合意を得たとする考え方は見直してほしい。今後はどのような手順で市民合意を得ていくのか。

また、上田市の図書館は本館と分館が連携されていて有機的に機能している。新しい文化・交流施設は確かに素晴らしいものなのだろうが、周辺地域の住民にどのような恩恵があるのかという部分が見えてこない。この計画を進めていくのであれば、地域文化をどう育てるのかという点も、もっと掘り下げ、具体的に示すべきだ。

このような施設の場合、計画している段階では夢があるのでとても盛り上がるが、実際の運営段階で問題が発生している例が多い。また、建設後の運営管理経費は、実際にはもっと必要になる可能性があるため、さらに市民が安心できるよう充分検討しなければいけない。

(伊藤交流・文化施設準備室長)

今回の施設整備は、市民の皆様にご理解、ご協力をいただくことが大切な視点で、まさに市民の合意形成づくりが重要な観点と考えます。検討委員会には、文化団体の代表をはじめ様々な団体の代表の方で構成され、丸子地域(3名)、真田地域(2名)、武石地域(2名)から委員に入っていて議論を行ってまいりました。また、多くの市民からご意見をいただけるよう、市民懇談会・出前講座などを実施してまいりました。今後もさらに御意見をいただける機会を数多く重ねていきたいと思っております。

市内にはいくつかの文化施設があります。今回の整備計画は、市民会館の移転改築を前提に進めていますので、あくまでも大規模なホールの整備と考えています。上田文化会館(500席)、丸子文化会館(800席)、他の上田創造館・信州音楽村などは、小規模ホールから中規模ホールにあたります。今回計画している施設と、これらが有機的に連携し、さらに相乗効果を得ることができればと考えています。

各地域の公民館や文化施設では、それぞれに地域の文化活動が行われ、地域の文化・歴史が育まれてまいりました。今回の整備は、その地域の施設ならではの特徴を活かしていくことと同時に、大規模な施設だからこそできる大きな事業や交流を通じて、地域全体が発展できるような

交流・文化施設となることを目指しています。

(委員)

大ホール 1700席に疑問を感じている。松本市・長野市にあって、上田市に無いからという説明で 1700席というのはいかがかと思う。実際の施設運営の面を考えると、そういった部分的というか、局部的というかの取り上げで 1700席としてよいのだろうか。将来の上田市民の負担が心配になる。

(伊藤交流・文化施設準備室長)

検討委員会では、現在の上田市民会館(1330席)と同程度でよいとか、一方では若者向きのコンサートが開催できる 1800席から 2000席がよいといったように、多様な意見が委員から出されて議論した結果、最終的に 1700席として報告されています。

今後はこの客席数に伴って変わる維持管理経費、また客席数を増やすことによって得られる効果等を総合的に検討して市民の皆様にご提案させていただきたいと思っております。

(委員)

最後まで責任を持って反対できるかという難しい部分もあるが、正直いって反対です。私はコンサートや舞台を多く利用しているほうだが、この上小地域の興行実績は、県下でワースト1と聞いている。会場(施設)の有無ではなく、客席が埋まるかという観点で検証が必要ではないか。

子どもたちが集まる教育的な場所とするならば説明がつくのかもしれない。しかし、このようなご時世の中、収益を上げなければならない施設とすれば、現実的に興行が成り立っていない状況を考えたとき、建設はとても疑問になる。松本市の文化施設も興行がとても厳しい状態らしい。興行主からのデータや意見を参考にしているのか。

(伊藤交流・文化施設準備室長)

今回の施設整備は、地域の子供たちが質の高い芸術鑑賞のできる環境づくりとする検討委員会の思いも報告されています。これは、現在の上田市民会館では、優れた音楽・演劇等を受け入れることができないという施設的な問題からであります。

興行主との意見を交換する場もあって、そこでは 1600席以上ないと興行的には厳しく、長野県民文化会館(2000席)のような大規模なホールが望ましいとのことでした。この施設は、子どもたちや市民の皆様にご数多く使っていただくことを目的としているのと同時に、興行するプロモーターにも多く活用してもらいたいという思いがあります。検討委員会では、このような観点も含めた上で、1700席という規模で報告されています。

(委員)

市全体の施設の話になるが、丸子セレスホール・上田文化会館・サニアパーク等々、多くの市有施設については、人件費や管理費を一覧表にして示し、将来を見通した財政的な検証をすべきである。今回を例にとれば、小ホール 300席については、他施設でも足りるのではな

いかという議論にもつながる。

また、文化・交流施設をつくるから、何でもそこに集中するという考え方は、市の全体像を見ていないと感じる。合併以来、何でも中心地に施設を持っていけば良いという発想になっているのではないか。

(2) その他

- ・ 「あずまや高原 秋祭りの旅 」について 【主催：平塚らいてうの会】
～ 平成 21 年度上田市わがまち魅力アップ応援事業 ～

5 その他

(佐藤副会長)

次回については、10月22日(木)午後7時からとしたいかがでしょうか。

特にご意見なければ、次回(第7回)の協議会は、10月22日(木)午後7時からとします。

6 閉 会

(佐藤副会長)

以上で全体協議を終了します。

このあと、各分科会に分かれ協議していただきます。

協議時間は、概ね9時ごろまでとし、流れ解散とします。

～ 各分科会の会場に移動 ～